

“聖地” その奇妙な魅力

観光旅行とは、だいぶ趣が違う。だが、自宅から離れた場所にどれくらいか滞在し、そこで忘れられない思い出ができる、という点では「旅」と同じといえるだろう。その旅の行き先に、いつしか人は強い愛着を持つ。

「スポーツ合宿」である。

自然の豊かな山々に囲まれた信州は、古くからスポーツ合宿で訪れる人が多い。もちろん、かつて冬季五輪が開かれた地なので、競技によっては試合会場になることも確かだが、冬季競技、夏季競技を問わず、スポーツの合宿地、言い換えれば「武者修行」の場として信州を選ぶ学校やチームは、けっこう多い。大都市からのアクセスの良さ、温泉地や宿泊施設が多いこと、標高の高い場所で心肺機能を高められることなども人気の理由なのだろう。

代表的なのが、上田市の菅平高原だ。とりわけ、ラグビー経験者にとっては誇張抜きで「聖地」と言われている。例年、夏場には同高原に、全国の高校や大学、合わせて約900チームが訪れる。昨年のラグビーW杯での盛り上がりもあり、今夏も多くのラグーマンがここに集まり、技術を高め合う…はずだった。

新型コロナウイルスの感染拡大で、今、菅平高原は昨年までのにぎわいはない。その風景は、信州の他地域でも見られる「夏場のスキー場」のそれと、ほとんど変わらない。そんな「聖地」の様子を、宿泊施設の関係者と同じくらい、いや、それ以上に悲しんでいるのが、かつてこの地で鍛え上げられたラグーマンたちだ。

信濃毎日新聞8月7日付朝刊に掲載された広告特集を見ると、そのことがよく分かる。コロナ禍で苦境にある菅平高原を応援するメッセージを集めたその紙面には、広瀬俊朗、流大、山田章仁、姫野和樹ら、日本ラグビー界の大物たちも名を連ね、菅平への愛着を語っている。そして、全国の現・元ラグーマンが「頑張れ！菅平」と思いを寄せている。東京、大阪、愛知、岩手、福島、茨城、埼玉、千葉、神奈川、群馬、滋賀、京都、愛媛、広島、福岡、宮崎から…。

メッセージを寄せた人々はおそらく誰もが、菅平で壮絶なトレーニングをしてきたことだろう。「二度と来るものか！」と思った人も少なくないはずだ。時がたっても、その記憶は脳裏を離れない。なのに、菅平は愛してやまない場所になっている。「聖地」とは、かくも奇妙な場所なのだ。

「名所」なら全国津々浦々にある。それらはどこも、素晴らしい。だが、「聖地」といわれ、人の心の中にどっかりと居座る場所は、どれほどあるだろう。美しい自然、雄大な風景…それだけではない信州の魅力に気づかされた、2020年の夏である。

信濃毎日新聞社 広告局企画部次長 豊田 幸司



上田市の菅平高原。ラグビー経験者にとっての「聖地」に今、昨年までのにぎわいはない…